全国の〝温泉遺産〟ここに集結！

『すごい温泉100』に掲載された2つの温泉

山奥の秘湯やひなびた一軒宿など特筆すべき魅力たっぷりの温泉、全国100選を取り上げたムック本が出版され、〝ひなび感を残したい！〟の部に、富岡市の「大島鉱泉」と安中市の「霧積温泉金湯館」が選出されました。

大島鉱泉

百年の時を刻む県内唯一の温泉銭湯

254バイパスを群馬県富岡合同庁舎方面に折れ、192号線（秋畑富岡線）を進み〈大島鉱泉〉の看板を右折。坂を下った先の窪地に懐かしさただよう一軒家が目的地。エンブレムのように白壁に貼られた古いキンチョールの看板が、昭和レトロの情緒を一層引き立てます。

男湯は富士山と白糸の滝、女湯は上高地が描かれたタイル絵で彩られ、定番のケロリンの桶があります。

メタほう酸含有の源泉の温度は11・6℃。浴槽にためた鉱泉をご主人の小間信明さんが廃材の薪を焚いて42℃程に加熱して提供しています。薪で焚いたお湯は体の芯からポカポカと温まりその状態が長く持続。無色透明で無味無臭なメタほう酸含有の泉質は胃腸の名湯とうたわれています。

また、大島鉱泉は群馬県公衆浴場生活衛生同業組合に加盟した施設で、県内で唯一の「温泉銭湯」。格安の入浴料で利用できます。

ご主人の小間信明さんは80歳。祖父が井戸を掘ったところ5メートルの地層から鉱泉が湧き出したことから、大正時代に温泉宿を開業。コロナ禍後は、入浴のみで営業しています。SNSの活用で、現在では遠くから足を伸ばすお客様も珍しくありません。

大島鉱泉（おおしまこうせん）
住所：富岡市大島148　TEL：0274-62-1490
営業時間：13時～17時（年中無休）
利用料：中学生以上450円　小学生200円　乳幼児100円

自ら薪をくべてお湯を焚く小間信明さん

木造二階建の部分は明治16年に建てられました。

昭和13年から水車による自家発電を開始。今では役割を終えましたが水車は霧積温泉のシンボルになっています。

霧積温泉【金湯館】

山奥で出会う奇跡のような美肌の湯

かつて碓氷峠越えを控える旅人などで賑わった中山道の旧宿場町「坂本宿」。今ではのどかな集落と化している坂本地区を通り抜け、県道56号線の山道を30分ほど車で行った所にある霧積温泉。渓谷に沿って曲がりくねる山道は、霧積湖を過ぎたあたりから険しさが増し、岩肌や砂防ダムから落ちてくる滝に幾度も出会います。日光を遮るように枝葉を張る木々に圧倒されながらようやく到着した先は、これぞ秘湯！　赤い屋根や橋の赤い欄干が印象的な一軒宿の金湯館があります。

源泉かけ流しで1分間に300ℓと豊富な湯量を誇る温泉は、カルシウム硫酸塩の泉質で39℃と比較的温め。透明で優しいぬめりのあるお湯に長くつかれる心地よさは格別です。

金湯館は明治17年（1884）に開業。当時は数軒の宿があり避暑地として賑わいました。伊藤博文が明治憲法の草案を書いた部屋が今でも残り、勝海舟や与謝野晶子、幸田露伴、西条八十など多くの文人も訪れました。しかし、鉄道が開通し軽井沢が避暑地となって発展すると客足が遠のき、現在の霧積温泉は金湯館のみ存続しています。

「お客さんからお湯をほめられ、また来くるよと言ってもらえるのが一番のやりがいです」と4代目の佐藤淳さんと知美さんご夫婦が家族の協力を得ながら切盛りしています。二人は松井田出身の同学年。秘湯を守る覚悟で息もぴったりです。

山の恵みをふんだんに使った山菜定食や時が刻んだ歴史のこぼれ話などは、この宿ならではのおもてなし。標高が軽井沢より200メートルほど高く真夏の最高気温は27℃程度と避暑地としても健在です。

佐藤淳さんと知美さんご夫妻

「母さん、僕のあの帽子は、どうしたでせうね？
ええ、夏、碓氷（うすい）から霧積（きりづみ）へゆくみちで、
谷底へ落としたあの麦わら帽子ですよ…」

西条八十（さいじょうやそ）『帽子』より

霧積温泉といえば昭和51年発刊の森村誠一氏の著書『人間の証明』が有名。森村氏が学生時代に同館に宿泊。ハイキングに出かけ、山の頂で宿のお弁当を開くと、その包み紙に刷られていた西条八十の『帽子』の詩を見つけ感動した経験から着想を得たといいます。

金湯館で『人間の証明』の文庫本を購入すると、こんな特別感のあるスタンプ（右）を押してもらえます。

霧積温泉 金湯館（きりづみおんせんきんとうかん）
住所：安中市松井田町坂本1928
TEL:027-1395-3851
宿泊に限り最寄の駅や駐車場まで送迎あり。
●宿泊料金（全館和室／1泊2食付／税込）
大人1名　本館：13,900円～　別館：15,500～
小学生まで1名　本館・別館とも9,350円～
●入浴のみ　大人700円・小学生300円（税込）